

第3講 マスコミ・回想録・プロパガンダ・歴史家

自分で考えてみよう：マスコミ・プロパガンダの中の記憶について述べよ。

マスコミ（記憶の断片化・方向づけられた記憶・ストーリー）：紙面の
頁数や放映時間の制約・速報性の制約の存在。

世論形成・誘導：結論に適合する事実を集め、不都合な事実のカット。

権威（政府高官や警察、大学教授など）に基づく報道：権威による
情報統制・情

報操作に利用される。

誤報の原因（政治家や政府による情報操作）

責任の不在・署名記事の不在。

松本サリン事件：被害者が犯人に仕立て上げられる。

ベルギーに侵攻したドイツ兵が赤ん坊を煮て食べた。

チェコ当局によるズデーテン居住のドイツ系住民への弾圧。

を虚偽報道→ズデーテンをめぐる国際的緊張を醸成。

ユダヤ人の死体から石鹼を作る。

イラクの大量破壊兵器（アメリカの情報の垂れ流し）。

見出しの変化：エルバ島を脱出したナポレオンの報道

「怪物」→「ボナパルト」→「皇帝陛下」。

プロパガンダとしての歴史（政治手段化）：民族や国家の正当化。恣意的な史料操作・史料の捏造や歪曲（民族という概念自身 19 世紀の産物・その民族を過去に投影）。

第一次世界大戦に関する各国の外交白書

自国に有利なように史料操作（敵国の好戦性を演出し自国の政策を弁護）。

イギリスの青書・仏の黄書・オーストリアの青書・ドイツの白書・ロシアのオレンジ書。

歴史検定（知識追求）：歴女ブーム（美系の戦国武将に関する知識）・江戸検定とか京都検定などの歴史知識についての検定が人気。

教科としての歴史（市民教養としての知識と受験）：教えられる歴史・教養の共有と資格。

国民国家を構成する教養市民の育成を目的。

（例）

民主主義のモデルはギリシアの民主主義。

漢の武帝は儒教を国教化した。

コルドヴァを都とする後ウマイア朝がスペインに君臨していた。

1453年にオスマン・トルコの攻撃でビザンツ帝国滅亡。

1939年のドイツによるポーランド侵攻が第二次世界大戦の直接の原因となった。

1962年のキューバ危機で人類は核戦争に直面した。

回想録（政治指導者や従軍将兵、財界人など）：自己の業績と自分に関わる事件の記録・史料となるが史料批判が必要

『フルンチョフ回顧録』

『13日間キューバ危機回顧録ロバート・ケネディ』

『マッカーサー大戦回顧録』など。